

櫻田大造著「『優』をあげたくなる答案・レポートの作成術」

講談社文庫、講談社 2008年3月14日刊を読む

## 賢い授業の取り方と勉強方法<スタディ・スキル>

### 1. よい授業ノートとは？

(1) よい授業ノートとは何であろうか？

(2) 一言でいうと、「そのノートを見直したときに、授業内容が思い出せるもの」であるといっ  
てよい。慣れないうちは、担当教員の発する言葉を一語一句正確に記そうとする受講生もいる  
であろう。一語一句をまずできるだけそのまま書き記し、後で、要点をまとめるというのも、  
初学者にとっては一つの方法である。

(3) けれど、徐々に授業ノートの取り方に慣れてきたら、講義全部を書き写すのではなく、要点  
のみをキーワードを中心に書き取っていきこう。なぜならば、通常、テスト問題というものは、  
授業で教員が強調した要点を中心に作成されるからである。

(4) まれに、授業であまり強調しなかった<sup>しょうまつせつ</sup>枝葉末節をネチネチときいてくる教員もいるかもしれ  
ない。そういう教員に当たったらアウトではあるが、ふつうは、論点をキーワードを中心とし  
た形でまとめるだけで、大学授業単位は履修できるようになっているはずである。

### 2. 概念をまとめ、理解する

(1) 大学の授業では、今まで習ったことがない難解な概念、専門用語、モデル、パラダイム、ア  
プローチ、理論、分析枠組み、手法などなどが出てくる。それらの意味がわからず、困ってし  
まうことも多くある。文系科目においては、とくにこれらの概念を、他人に説明できるくらい  
に理解して、おぼえていくことが重要である。

(2) 授業中にわからない言葉がでてきたら、チェックしておき、後で、教科書、参考書、辞典や  
事典などを使用して、調べてみよう。そのためにも、授業ノートは余白がたっぷり取ってあっ  
たほうが役立つ。

(3) たとえば、「ゼロサム(zero-sum)」という概念が授業で出てきたとしよう。簡単に定義する  
と、「一方の得点他方にとって同数の失点となる」ということであるが、この説明だけでは、  
あまりにも抽象的で言葉のイメージが浮かばないかもしれない。

(4)そこで、北方領土の帰属問題を思い浮かべると、より具体的に理解できよう。北方四島(択捉、<sup>えとろふ</sup>国後、<sup>くなしり</sup>歯舞、<sup>はぼまい</sup>色丹、<sup>しこたん</sup>)は日本もロシアも領有を主張しているが、もしもロシア側の帰属が国際法上確定すると、ロシアにとっては、四島を正式に得たことで、プラス 4 となるが、日本にとっては、四島を失ったことで、マイナス 4 である。その逆に日本側が四島を得ると、日本はプラス 4 で、ロシアはマイナス 4 となる。

(5)帰属がどちらか国際法的にも決まったときには、プラス 4 マイナス 4 = 0 で、ゲームの総和はゼロになる。このように自分が勝った分だけ相手が損をするような状況を、「ゼロサム」とよび、そのようなゲームをゼロサム・ゲームとよぶ。

(6)以上、わからない語彙や概念は、辞書、事典、教科書、参考書、ネット(Google 検索など)で調べて、理解することが大切である。どうしても理解しにくい場合は、担当教員に具体例をあげて「教えてください」と質問することもできる。

### 3. 授業ノートと教科書の関係

(1)大学の授業がわかり、ノートが取れるようになってきた。難しい概念などの調べ方もわかった。次に問題となるのは、教科書・参考書をはじめとする本や論文を読むことである。

(2)まず、当然の事ながら、教科書はきちんと購入しておこう。お金がない場合は、古本屋でみつけたり、先輩に譲ってもらってもよいから、自分のモノとして持っておかなくてはならない。

(3)教科書については、じっくり精読する必要がある。授業の進行に合わせて指定された教科書は、かならず購入し、授業の予復習に合わせて、必要箇所を読んでいく。

(4)1 回読んでわからないならば繰り返すが、2 回目は注意する。つまり、1 回目にザッと読み、2 回目は教科書の 1 ページあたりに平均して、3 分の 1 以下(それ以上多くなるとマーキングする意味がなくなる)を目安に、大事なところ、授業に関連したところにラインマーカーなどでマーキングする。この時に、教科書で使用されている概念、数式、語彙などが難しすぎてわからない場合は、辞典や事典で調べて、書き込んでおいたり、おぼえておくことと便利である。そして、3 回目にはマーキングした箇所のみを目を通すと、重要点がよくわかる。

(5)また、テスト対策勉強用には、授業ノートとは別のテスト対策ノートを作成するのが、極めて効果的である。その際、一番注意すべきことは、テスト対策情報を分散させずに一冊に集中させるということだ。

(6)その際、人にもよろうが、教科書よりも、自筆、あるいは自分でワープロ作成した対策ノートに、すべての情報をまとめるのがよい。授業ノートを中心に、そこに教科書から重要情報を抜き出して、付け加えていき、なるべく完璧なテスト対策ノートを作っていこう。それを、繰り返し、読み書きして、暗記していくのである。

#### 4 . 対策ノート作成のために集団学習

(1)もう一つ、試験対策ノートを作成するために、オススメの方法をあげておく。最近の学生はあまりやっていないようであるが、試験前に、気心の知れた仲間と集まり、グループで対策ノート作成を目的に学習するのである。

(2)そこでは、自分からも試験や授業に関する情報を与える代わりに、わからないところを友人に説明してもらうなど、ギブ・アンド・テイクの精神が、ポイントとなる。どちらかが、ギブ・アンド・ギブまたはテイク・アンド・テイクとなると、このようなグループ学習は長続きしない。たとえば、ある科目ではノート情報をあげるから、別の科目での質問事項を教わるなど、バランスの取れた貸し借りにより、テスト対策をやっていこう。

P81 ~ 87

#### [コメント]

関西学院大学の政治学教授 櫻田先生のスタディ・スキルのお話は参考になる。「学習の3段階理論」は大学での勉強に役立つ。大学こそ学びの共同体であることがよくわかる。学び方を学ぶスキル、自己学習能力の育成に役立つ本書で更に勉強の方法に磨きをかけると素晴らしい。

- 2011年5月19日林 明夫記 -